

東洋エンジニアリング（6330）企業分析レポート

2. 【直近5年の業績推移】

決算期	売上高(百万円)	営業益(百万円)	経常益(百万円)	EPS(円)	配当金(円)	寸評
2022.03	202,986	2,963	3,126	27		増収・増益だが規模は中位。
2023.03	192,908	4,764	3,888	28		売上減も利益率は改善。
2024.03	260,825	6,712	6,995	167		最終益が過去最高（実績）。
2025.03	278,091	2,591	6,459	34		営業益が大幅減、変動の大きさが露呈。
2026.03(予)	200,000	1,500	6,500	85		減収予想だが経常益は横ばい見込み。

3. 【財務・キャッシュフロー概要】+【財務コメント】

決算期	営業益(百万円)	フリーCF(百万円)	営業CF(百万円)	投資CF(百万円)	財務CF(百万円)	現金等残高(百万円)	現金比率(%)
2023.03	4,764	6,122	15,591	-9,469	-1,574	95,865	37
2024.03	6,712	13,339	6,001	7,338	-1,059	109,072	38
2025.03	2,591	-42,866	-23,094	-19,772	674	72,509	25

決算期	1株純資産(円)	自己資本比率(%)	総資産(百万円)	自己資本(百万円)	剰余金(百万円)	有利子負債倍率(倍)
2024.03	1,276	22	285,996	63,937	27,765	0.56
2025.03	1,174	20	286,598	60,011	29,083	0.86
25.04-09		21	253,545	53,852	24,443	1.01

【財務コメント】2025.03は営業CF 23,094百万円、フリーCF -42,866百万円と大きく悪化し、現金等残高も72,509百万円へ減少した。一方で自己資本比率は20.9%（2025.03）と一定水準を維持している。短期の資金繰りよりも、案件収支・運転資金の振れをどう抑えるかが論点となる。

4. 【会社概要】

本レポートは、提示データ（業績・CF・財務・株価情報）に基づき、同社の収益変動と財務の論点を整理する。建設業（総合エンジニアリング）に分類されるため、案件採算や進捗の影響で利益が振れやすい点を前提に見る。

5. 【歴史】

2000年代は売上規模が拡大し、2009.03に営業益・経常益の過去最高を記録した一方、2015.03や2018.03には大幅赤字も経験している。直近は2024.03に最終益が過去最高となったが、2025.03は営業益が大きく落ち、業績の振れ幅が続いている。

6. 【立ち位置】

同業比較では、日揮HDや千代田化工建設などと同じくエンジニアリング領域で市場から注目されやすい位置付けにある。一方で建設大手（鹿島・大成建設・清水建設）と比べ、事業構造が異なるため、景気循環よりも案件採算・資源価格テーマの影響を受けやすい。

7. 【見解】

中長期的には、資源・エネルギー、GX関連の投資が続く局面では受注環境の改善が業績押し上げ要因となり得る。一方で、2025.03に見られるように営業CF・フリーCFが大きく振れる局面では資金繰り・採算管理の不確実性が株価変動を増幅するため、進捗開示やキャッシュの回復タイミングを確認しながら段階的に向き合うのが妥当である。

8. 【株価・市場情報】(2026-01-06)

項目	値
株価(円)	3,585
前日比(円)	+275
騰落率(%)	8.31
PTS(円)	3,810
時価総額(億円)	
PER(倍)	
PBR(倍)	
配当利回り(%)	
信用倍率(倍)	

9. 【同業他社比較】

銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億円)	特徴
千代田化工建設(6366)	951	10.95		2475	三菱系の総合エンジ。LNG等。
日揮HD(1963)	2,045	17.67	1.2	5314	総合エンジ最大手。石油・化学等。
鹿島(1812)	6,164	18.53	2.21		総合建設大手。内外で不動産等。
大成建設(1801)	15,660	18.63	2.97		総合建設大手。再開発に強み。
清水建設(1803)	2,776	25.04	2.1		総合建設大手。民間建築中心。

10. 【投資成功シナリオ】

成功シナリオは、利益率の改善とキャッシュ回復が同時に進むケースである。具体的には、営業益の持ち直しに加え、営業CFがプラス基調へ戻り、現金等残高の増加が確認できる展開。この場合、テーマ性（資源・コモディティ関連の物色）と実体（収益・CF改善）が噛み合い、評価が再上方修正されやすい。

11. 【投資失敗シナリオ】

失敗シナリオは、減収局面で採算悪化と運転資金負担が同時に起きるケースである。2025.03はフリーCFが大きくマイナスとなっており、同様の状態が継続すると株主還元余地や投資余力の制約につながる。さらに短期決算で赤字が連続する場合、テーマ物色が剥落した際に株価の下振れ圧力が強まる。

12. 【メモ】

直近四半期（25.07-09）は売上減と赤字化が目立つ。通期予想の達成には下期での大幅な改善が前提となるため、受注・採算・CFの回復確認が最優先。